

アウエイゲーム

谷岡健彦

あらずじ

Jリーグのチームのサポーターのノブとリョータは、ソウルまでアジア・チャンピオンズリーグの試合を見に行こうとしている。チケットはソールドアウトになっており、リョータが友だちのツテを頼って、なんとか二枚確保した。チケットは、空港ターミナルビル内のカフェで受け渡しをすることになっていたのだが、そこに現れた人物は、ファンの間でも恐れられている過激なグループに属するオオタだった。対戦相手への敵意をむき出しにするオオタに、ノブとリョータは戸惑う。さらに、オオタは同じグループの仲間のバキとシンゴを連れてきて、今夜スタジアムでひと騒動を起こそうとしていることを打ち明ける。彼らは相手サポーターの真っ只中で、旭日旗を振り回そうというのだ。ノブとリョータはできるだけ関わりを持たないようにしようとするのだが、チケットを手配してもらった手前、まったくの無関係であることもできない。そのうち、バキたちは韓国人に対するヘイトスピーチまがいの発言を始める。

国際線が発着する空港のターミナルビル内にあるセルフサービスのカフェ。
二〇代後半の男リョータと、それより少し年上のノブが入口に立っている。
ふたりともJリーグのチームのユニフォームを着ている。
ソウルまでアジア・チャンピオンズリーグの観戦に行くらしい。

リョータ

ここ、ですかね？

ノブ

うん、第一旅客ターミナルで、カフェといったら……。

リョータ

ここしかない、ですよ。あれはマックだし。

ノブ

マックだったら、マックって言うよな。

リョータ

ですよ。

ノブ

まあ、場所ちがってたら、携帯に連絡あるでしょ。オオタさん、お前の携帯の番号知ってるんですよ。

リョータ

ええ。伝えています。

ノブ

入ってようか。お前、席、取っというて。オレ、注文してくるわ。コー

リョータ

ヒーでいい？

リョータ

はい、アイスで。

リョータ、テーブル席を取る。ノブはカウンターに行く。

ノブ

(店員に)ブレンドとアイスコーヒー。

ノブ、飲み物を受け取り、リョータのテーブルのところまで運んでくる。

ノブ

しかし、この試合がこんな大事になると思わなかったよな。

リョータ

ほんとだったら、とくにグループステージ突破を決めてるはずですよ。

ノブ

んね。

ノブ

そうだよ。最初、対戦スケジュール見たとき、オレ、この試合は消化試合

リョータ

になると思ったもん。

リョータ

両チームとも、決勝トーナメント進出を決めていて、この試合では若手を

ノブ

試す。

リョータ

家で、テレビで見りゃあいいと思ったもんな。そしたら……。

リョータ

まさかのホームでの取りこぼしの連続。

ノブ

もし、この試合、引き分けになったら、どうなの？

リョータ

三位のシドニーの結果次第ですね。

ノブ

シドニーはどつちで試合やるんだっけ？ ホーム？ アウェイ？

リョータ

ホームです。

ノブ

じゃ、勝つよな。

リョータ

勝ちますね。たぶん大量得点で。相手、タシケントのチームでしょ。シドニーに着くまでにヘトヘトですよ。もう予選敗退、決まっていますし。

ノブ

としたら、ウチは勝つしかないの？

リョータ

ええ。チケット、ソールドアウトになるわけですよ。

ノブ

アウェイでアイツらに勝つ、か。きびしいよなあ。

リョータ

アイツらは引き分けでいいんだから、ガチガチに守ってきますよ。

ノブ

だいたい、ウチはアイツらにはホームで負けるんだよね。

リョータ

あの負け、痛かったですねえ。ふつうにやったりや、勝てた試合でしょ。

ノブ

中沢。

リョータ

そう。フリーの決定機、何回外すんだって。

ノブ

後半のあれなんか、身体のとっかに当てりや、入ってたじゃん。

リョータ

そうですよ。あんなの、ウチの祖父ちゃんだって、決められますよ。

ノブ

おいおい、お前の祖父ちゃんって。あれっ、お前の祖父ちゃん、寝たきり

じゃなかった？

リョータ

ちがいますよ。鼻の下に酸素チューブ、つけてますけど。

ノブ

祖父ちゃん、決定力あるの？

リョータ

どうですかねえ。キック力がありますよ。中沢が外したとき、ふすま蹴倒

ノブ

しましたからね。性格も超攻撃的だし。

リョータ

意外といいかもな。

ノブ

は？

リョータ

いや、意外といけるかもよ。試合終了寸前のコーナーキックのときなんか

リョータ

に、中沢に代えてお前の祖父ちゃん出すの。これは、相手は守りにくいぜ。

ノブ

ちよっと身体寄せただけで、祖父ちゃん、倒れますからね。で、PK。

リョータ

そう。それに下手にタックルしたら、酸素チューブ外れて命にかかわるだ

ろ。いくら、いかついディフェンダーでも人殺しにはなりたくないもんな。

リョータ

祖父ちゃん、けっこう使えますね。

ノブ

ウチのチームのフロントにメールしてみようか。リョータの家にフオワー

ドの逸材がいるからスカウトを寄越してくださいって。

リョータ

で、入団となったら、すごいですよ。新聞に出ますね。「アジア・チャン

ピオンズリーグ制覇のための新戦力獲得。期待の八二歳」。

ノブ

(笑いつつ) 情けねえよな。まともなフオワードいねえのかよ、ウチは。

オオタが、ふたりのテーブルに近づいてくる。ふたりより年長に見える。

手にはビールのジョッキを持っている。

オオタ リョータくんたち、かな？

リョータ (立ち上がって) はい。オオタさん、ですか？

オオタ やっぱり、そうか。カフェで、ウチのユニフォーム着てる二人組を見つければいいと思ってただけど、けっこう何組もいて。

リョータ (店内を見回して) そうですね。

オオタ 今日はウチのサポ、多いね。

リョータ 決戦になりましたからね。

オオタ ほんと、気合入るね。

リョータ あ、チケット確保してくださって、ありがとうございます。こちら、ぼくの観戦仲間のノブさん。

ノブ (立ち上がって) はじめまして。貴重なチケット、ありがとうございます。

オオタ いいよ、いいよ。同じ気持ちで戦ってくれる仲間が増えんのは、オレらもうれしいから。(テーブルの空席を指して) ここ、座っていい。

ノブ・リョータ どうぞ、どうぞ(とぞいつつ、三人座る)。

オオタ あれっ、飲まないの？

リョータ (ノブと顔を見合わせて) いやあ、まだ午前中ですから。

オオタ いまから飲み始めたら、ちようどキックオフのころには、いい感じに出来るよ。

ノブ いや、ぼくら、そんなに酒、強くないんで。

オオタ そう。(店内にユニフォーム姿の客が次々と入ってくるのを見て) けっこうウチのサポーター、ソウルに行くみたいだな。

ノブ アウェイだけど、ホームみたいになるんじゃないですか。

リョータ ウチのホームでアイツらとやったときは、客席の9割、ウチのサポーターでしたよね。

オオタ 9割5分ぐらいじゃねえ？

ノブ 試合はえらいショボかったけど、応援は圧倒してた。

リョータ 事故で奥さん亡くした川端の応援歌、キックオフの前に歌ったじゃないですか。あれ、泣けたなあ。

ノブ 家でビデオ見たら、川端、胸に手を当てて聞いてくれてんのな。

リョータ イチゼロで負けたけど、オレン中じゃ、あの応援歌でイチイチの引き分けだね。

オオタ そう言ってもらえるとうれしいなあ。あそこで川端の歌、歌おうってアイディア出したの、オレなの。

リョータ えっ？

ノブ アイディア出した？

リョータ ひよっとして、オオタさん、ウルトラブルーズのメンバーですか？

オオタ うん。ブルーズ創設のときから。

ノブ・リョータ うわあ。(と顔を見合わせる)。

オオタ そんな、びつくりすることじゃないでしょ。君、リョータくんって言ったっけ？

リョータ はい。

オオタ リョータさんの言い方を借りれば、この前の試合、オレン中じゃ、ニイチで勝ってんだよね。

リョータ わかります、わかります。よかったの、川端の応援歌だけじゃないですか。試合中の応援も、すっごく統率とれてたし。

オオタ ありがとう。でも、応援だけじゃなくてね。ほかにもあったんだよ、あの日。

ノブ どうしたんですか。

オオタ 試合の後、オレら、向こうのサポーターのリーダー、張り倒してやったの。

ノブ これでニイチ。

オオタ えっ。まじっすか。

ノブ 駅前の広場で、韓国の国旗、これ見よがしに振り回して騒いでたからさ。

オオタ 一発ぶん殴って、旗、取り上げて、ズタズタにしてやったの。

ノブ そ、それはちょっと……。

オオタ やりすぎ？ でもさ、はっきり挑発してきてるわけじゃん。

ノブ 挑発？

オオタ そう、挑発。オレらのホームグラウンドの駅前にさ、国旗立ててさ、占領してやりましたって、オレらに見せつけてるわけでしょ。すんごい無礼だよ。ウチのチームが情けねえ試合して負けたのは、しょうがないよ。(だんだん語気が強くなる) 終了のホイッスルが鳴った後、向こうのサポーターが客席で大喜びしたのは、腹立つけどさ、じっと我慢して見てたよ。でもさ、スタジアム出た後まで、しつこくオレらのプライド傷つけるようなことしないでいいだろ。あんなことされて、許せっかって話だよ！

ノブ・リョータ ……。

オオタ (携帯を見て) あ、ごめん。連れが迷ってるみたい。ちょっと迎えに行くてくるわ。

オオタ、カフェを出ていく。

ノブ お前、誰にチケット、頼んだんだよ。

リョータ オレも知らなかったんですよ、たったいままで。友だちに、「知り合いの

友だちなら、なんとかチケット手に入るかもしれない」って言われて、頼んだんです。そしたら、まさかブルーズの人とつながるなんて。

ノブ　ほんと、どうすんだよ。ブルーズに囲まれて、試合見るの？　帰り道、向こうのサポーターに襲われるかもしれないよ。オレ、正直怖いよ。

リョータ　オレもですよ。ソウルに行くの、やめまじょうか。

ノブ　そうもいかねえだろ。もう搭乗券もらって、荷物も預けてあるんだぜ。だ

いいち、オオタさんに何て言うの？　「ちよつと用事ができたんで、ここで失礼させていただきます」で、納得してもらえと思うか。

リョータ　そうですねえ。ああ、テレビ観戦にしときゃよかった。

オオタ、バキとシンゴを連れて戻ってくる。バキはオオタと同年代、シンゴはリョータよりも、さらに年下のようなのである。ふたりとも大柄で体格がよい。どちらもビールのジョッキを持っており、バキはすでにほろ酔い加減である。

オオタ　お待たせ。(ノブとリョータに)ブルーズのバキさんとシンゴくん。(バキ

とシンゴに)リョータくんと、えっと、ノブくんではよかったかな？

ノブ　はい、ノブです。よろしく。

リョータ　リョータです。よろしくお願ひします。

バキ・シンゴ　よろしく。(五人それぞれ着席する。)

(隣の席のノブの背中を叩いて)今日は勝たないとな。

バキ　は、はい。

ノブ　じゃ、このふたりがオレらの席に座るの？

オオタ　そう。

シンゴ、オレのチケット、持つてるよな？　お前の分と合わせて、このふたりに渡して。

シンゴ、言われたとおりにする。

リョータ　ありがとうございます。

ノブ　えっ、でも、バキさんとシンゴさんは？

バキ　なんだ、まだ話してなかったの？

オオタ　うん。ちよつと、さつき、その話をしかけたところなんだよ。シンゴ、あれ持ってきた？

シンゴ　はい。(リュックから白地に赤線の入った布を出す)。

ノブ　何ですか、それ？

オオタ　旭日旗。今夜スタジアムで、これ振り回してやろうと思うんだ。

ノブ ええっ、それって、ヤバくないですか。

バキ ヤバイよ。めちやくちゃ、ヤバイよ。

オオタ うん。ちゃんと説明するとね、ウチのホームの試合であんなことされて、オレら、腹の虫おさまらねえから、仕返しを考えたわけ。裏から手を回して、アイツらのゴール裏の席、二枚取ってさ。そこにバキさんとシンゴが、向こうのサポーターの振りして座るの。

バキ で、キックオフ直前に、この旭日旗、振り回すんだよ。

オオタ だから、君らが持つてるのは、もともとバキさんとシンゴが持つてたチケット。

リョータ でも、旭日旗なんか、向こうのゴール裏で振り回したら、タダじゃすまないでしょう？

バキ そら、多勢に無勢だからね。オレとシンゴで、手当たりしだい殴りとばすけど、その倍は殴られるだろな。袋叩きになる前に、わざと警備員に捕まるように逃げるつもり。スタジアムからつまみ出してもらえりゃ、大ケガしないですむから。

ノブ じゃ、ふたりは試合は？

バキ 警察か病院で、結果を教えてもらうよ。

シンゴ (起立して頭を下げながら) 自分たちの分まで応援、よろしくお願いします。

リョータ ちょっと、そんなお願い、ぼくらには重すぎますよ。こんなチケット、受け取れませんよ。

ノブ ぼくも無理です。

バキ (語気を荒げて) なんだと、おい。お前ら、ここまで来て、何言ってるやがんだ。

オオタ ちょっと、ちょっと、バキさん、そんな熱くなんないですよ。このふたりはさ、ソールドアウトになったチケット、必死になって探してさ、わざわざソウルまで試合見に行こうとしてくれてるわけじゃない。さっき、ブルーズの応援、カッコいいとも言ってくれたよ。基本、オレらの味方、仲間だよ。(ノブとリョータに) そうだよな？

バキにじっと見つめられ、ノブとリョータ、うなずかざるをえない。

オオタ だからさ、仲間うちで揉めるの、やめようよ。大事な試合前なんだし。(ノブとリョータに) 君らもびっこりしたよね、いきなり、とんでもない計画聞かされて。でもさ、べつに旭日旗、振り回してって頼んでるんじゃないんだよ。試合中、バキさんとシンゴの代わりに、声出してやってってくれ

だけなんだ。ふだんの試合といっしょじゃん。でさ、これがいちばん心配なんだろうけど、万が一、アイツらと乱闘になったときは、オレが責任持って君らを安全な場所に逃がす。迷惑はかけない。だから、バキさんとシngoのチケット、受け取ってやってくれないかな。君らも、スタジアムで試合見たいわけでしょ？

ノブ
ええ、まあ。

オオタ
よし、そろそろ時間？ これ飲んだら、行くか。

オオタ、ジョッキのビールを飲み干す。

オオタ
ふう。(自分に言い聞かせるように)今日は、ヤツらを、倒す。
バキ
いいねえ、オオタ。気合、入ってるね。

シngo、ジョッキのビールを飲み干す。

シngo
今日は、ヤツらを、倒す。
バキ
おっ、シngoもやるじゃん。じゃ、オレも。

バキ、ジョッキのビールを飲み干す。

バキ
今日は、ヤツらを、倒す。おい、今日はどうするんだ、みんな。ヤツらを……。

バキ以外の四人
倒す。
バキ
いいねえ。みんな気合入ってるよ。ヤツらを……。

バキ以外の四人
倒す。
バキ
ヤツらを……。

バキ以外の四人
倒す。
バキ
ヤツらを……。

バキ以外の四人
倒す。
バキ
ヤツらを……。

バキ
（右の四人の台詞に被せるように）殺す。
オオタ
ちよっと、バキさん、テンション上がりすぎだよ。

バキ
何がテンション上がりすぎだよ。いつもJリーグの試合前でも言ってるフレーズだろが。口で「殺す」って言っただけで、誰か死ぬんか。だいたい、この前の試合のとき、「相手を殺すぐらいのつもりで声出していきましょ

オオタ
バキ

う」とか言ってたの、お前じゃねえかよ。
それはそうだけど。今日はブルーズじゃないふたりがいるんだし、だからって、遠慮することもねえだろ。あれっ、仲間なんじゃなかったけ、ふたりは？ え？ さっき、お前そう言ったよな。このふたりもうなずいてたよな。な？ いいか、いくぞ。ヤツらを……。

殺す。

シンゴ
オオタ

バキさん。やめようよ。

バキ

ヤツらを……。

シンゴ

殺す。

オオタ

バキさん。

バキ

ヤツらを……。

シンゴ・オオタ

殺す。

バキ

おいおい。そのふたりはどうしたんだ？ 今日はおれとシンゴの代わりに声出してくれるんじゃないか？

オオタ

(ノブとリョータに) 悪いけど、ちよっただけつき合ってくれない？

バキ

ほら、いくぞ。ヤツらを……。

バキ以外の四人

殺す。

バキ

おお、やっとな声が出てきたよ。ヤツらを……。

バキ以外の四人

殺す。

バキ

ヤツらを……。

バキ以外の四人

殺す。

バキ

チョーセン……。

シンゴ

殺す。

オオタ

バキさんっ！(あわててカフェの他の客の反応をうかがう)。

バキ

何だよ、いちいち。うるせえな。おれとシンゴ、今夜、半殺しになるかもしれないねえんだよ。これぐらい言わせてもらってもいいだろうが。男かほんとに、お前ら。この「女」！(時計を見て) 悪いけど、先行くわ。シンゴ、行くぞ。(バキとシンゴ退場)

オオタ

バキさんっ！(ノブとリョータに) ふだんは、あそこまで荒れたりしないんだけど。今日は酒入ってるし、気も立ってるし。悪かったね。許してやって。ちよっとな心配だから、おれも先行くわ。じゃ、またスタジアムで。

(退場)

ノブとリョータ、黙って座っている。リョータ、残っているアイスコーヒーをストローで啜る。ノブ、テーブルの上に置かれたチケットを手にとって見つめる。

「東京国際空港ご利用のみなさまにご案内申し上げます。アジアナ航空一〇一便
ソウル行きはご搭乗の準備が整いました。ご搭乗のお客様は、二九番ゲートまで
お越しく下さい」というアナウンスが流れる。その後、同じ内容が英語で、次に
コリア語でくり返される。

リョータ

どうします？

ノブ

(チケットを見ながら) どうしようか。

再度、搭乗案内のアナウンスが日本語、英語、コリア語の順に流れる。ノブとリ
ョータは相変わらず座ったまま。暗転。